２０２２

推薦図書

１　目次

２　推薦図書（教職員・図書委員）

３　本と書店を巡る旅

４　編集後記

群馬県立太田フレックス高等学校図書室

目次

『はじめての文学』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
『自省録』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅰ・Ⅱ部

『なぜか聴きたくなる人の話し方』・・・・・・・・・・・・・2
『考えない猫が教える脱力系哲学の言葉』・・・・・・・・・2
『空が青いから白をえらんだのです』・・・・・・・・・・・3
『動物会議』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
『どうぶつせんきょ』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
『わたあめ』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
『中学生から知りたい　ウクライナのこと』・・・・・・・5
『キーウの月』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
『鹿の王』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
『戦争をやめた人たちー１９１４年のクリスマス休戦』・・6
『ぼくが見た太平洋戦争』・・・・・・・・・・・・・・・・・7
『略奪者のロジック　超集編』・・・・・・・・・・・・・・・7
『メタバース進化論』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
『法律がわかる！桃太郎こども裁判』・・・・・・・・・・・8
『おいしくて泣くとき』・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
『風姿花伝・花鏡』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
『身の下相談にお答えします』・・・・・・・・・・・・・・１０
『徳川１５代将軍　解体新書』・・・・・・・・・・・・・・１０
『東大首席が教える超速「７回読み」勉強法』・・・・・１１
『悲観する力』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

Ⅲ部

『空をこえて七星のかなた』・・・・・・・・・・・・・・・１２
『図書館の大魔術師』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
『北極と南極の「へぇ～」くらべてわかる地球のこと』・１３
『はたらく細胞　BLACK』・・・・・・・・・・・・・・・・１３
『数の悪魔』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
『ハサミ男』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
『北条義時―鎌倉殿を補佐した二代目執権』・・・・・・１５
『インドを知る事典』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
『ゴールデンボーイー恐怖の四季春夏編』・・・・・・・１６
『朔と新』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

通信制

『罪と罰』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

事務部

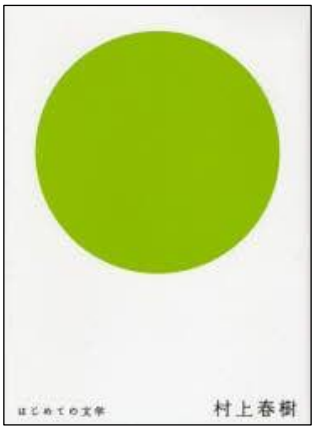
『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。』・・・・１７
『傑作はまだ』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

図書委員

『パン屋ではおにぎりを売れ』・・・・・・・・・・・・・・１８
『卒業するわたしたち』・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
『銀河鉄道の夜』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

本と書店を巡る旅・・２０
編集後記・・２１

『はじめての文学』
　村上春樹／著　文藝春秋



　世界的に有名な村上春樹ですが、実は高校生向けと思われる作品は多くありません。この短編集はそんな村上作品の中から、作者自身が若者向けに選んだものです。
　村上文学の入門書として最適の１冊だと思います。『沈黙』はかなり異質な作品ですが、人によっては心の支えとなるような作品かもしれません。

『自省録』（じせいろく）
　マルクス・アウレーリウス／著　岩波文庫

菅田将暉さん主演のドラマ「ミステリと言う勿れ」のなかでも使用され、今から 2000 年近く前に、第 16 代ローマ皇帝によって書かれた、人生についての洞察あふれる名著です。学生時代に読んだ本を、人生経験を積んだ後にもう一度読み返してみると、きっと新たな発見があって楽しめます。そうそう、ラッセル・クロウ主演のアカデミー賞映画「グラディエーター」は、マルクス帝の時代を物語の舞台としています。

『なぜか聴きたくなる人の話し方』
秀島史香／著　朝日新聞出版社

２５年の四半世紀の間、ラジオの人気 DJ を務めている著者による、相手が思わず耳を傾けたくなる話し方のコツを紹介した書物です。ラジオ現場のエピソードを交え、軽快な文章で綴った一瞬で心の距離が縮まる「会話のレシピ集」です。

『考えない猫が教える脱力系哲学の言葉』

原田 まりる／著（写真：関 由香）大和書房

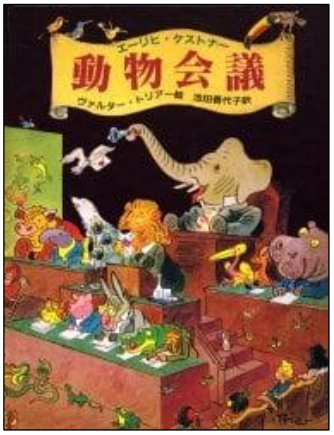
哲学とは、「新しい視力を与えてくれる学問」（作者）。悩んだり、行き詰まったり、お疲れ気味のときは、別の視点から物事を見ることで、ちょっぴり楽になることもあります。この本は、約 50 個の哲学者の言葉を「考えない」猫たちが、とてもゆる～く解説してくれています。

子猫の写真も満載で、猫好きの人はそれだけでも癒やされるかも･･･。

『空が青いから白をえらんだのです』
（奈良少年刑務所詩集）
寮美千子・編　新潮社

青い空に白い雲の写真が印象的な表紙です。その下の、煉瓦を積み上げた高い壁が、奈良少年刑務所です。そこで日々を送る少年たちがつづった詩が収められている文庫本です。表現したいものがある・表現する手段がある・表現を伝えたい人がいるということは、かくも素晴らしく、美しいことかと考えさせられます。

『動物会議(どうぶつ会議)』
エーリヒ・ケストナー／原作(池田香代子・翻訳)
岩波書店



第二次大戦が終わり、各国の首脳たちは世界平和を維持するために国際会議を重ねていますが、成果があがりません。それを見て怒った動物たちは、自分たちで会議を開き人間たちに平和の道を示そうとします。動物たちのスローガンはただ一つ「子どもたちのために！」です。どういう会議になるのでしょうか。
(アマゾンの書籍紹介より)

『どうぶつせんきょ』
　アンドレ・ホドリゲス、ラリッサ・ヒベイロ、パウラ・デスグアウド、ペドロ・マルクン／作（木下眞穂・訳）
　ほるぷ出版

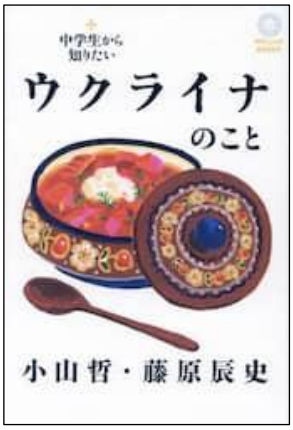
この本は、「せんきょ」や「みんしゅしゅぎ」について、僕たちが自分で考えるための絵本です。ブラジルの子どもたちが実際に行ったワークショップが元になっています。ライオン、サル、ヘビ、ナマケモノ。彼らの選挙活動を見て、あなたなら誰に、自分の「いっぴょう」を入れますか？

『わたあめ』
　近藤未奈／作　講談社

女の子が、もらったわたあめでほわんほわんと遊んでいるうちに、風がぴゅ～っと・・・あら、大変、わたあめが飛んでってしまいました。パステルカラーで描かれたこの絵本には、文字がありません。でも、風景が、女の子の表情が、僕らに何か話しかけてくれているようです。目で音を聞いてみましょうよ。

『中学生から知りたい　ウクライナのこと』
　小山哲・藤原辰史／著　ミシマ社

2022 年 2 月に始まったロシアのウクライナ侵攻を受けて、緊急発刊されることになった一冊です。離れたところから地政学や国際関係論で評論するのではなく、ウクライナを巡る「歴史」が語られるこの本から、僕らが「いま」という時代を生きるための学びがたくさんあると思います。中学生から知りたい・高校生のみんなに知ってもらいたい・もちろん大人は知らなきゃならない。



『キーウの月』
　ジャンニ・ローダリ／作（内田洋子・訳）　講談社

「キーウの月は　ローマの月のように　きれいなのかな」と、こんなことばで始まる短い詩に、挿絵が添えられています。すぐに読める、でも奥深い本です。
ウクライナ救援のために、2022 年 8 月に緊急出版された絵本です。売り上げによる利益はすべて、イタリア赤十字社とセーブ・ザ・チルドレンに寄付されます。

『鹿の王』上・下巻
　上橋　菜穂子／著　ＫＡＤＯＫＡＷＡ

　感染病に立ち向かう人々をえがいた、ファンタジー小説です。コロナ禍の影響で、「感染病」という言葉に興味を引かれ読んでみました。長い物語ですが、あっという間に読み終えてしまいました。著者の作品には、他に、『精霊の守り人』も有名なので、これも読んでみたいと思います。

『戦争をやめた人たち　－１９１４年のクリスマス休戦』
　鈴木まもる／文・絵　あすなろ書房

第一次世界大戦で本当に起こったできごとを描いた絵本です。自分が市立図書館で借りて読んで涙で最後の一文が読めなくなり、歴史総合の授業でも紹介した本です。この絵本のもとになったできごとは、イギリスのスーパーマーケットのＣＭの動画にもなっており、ＹｏｕＴｕｂｅでも見ることができます。戦争が起きている今だからこそ、特に若い皆さんに読んで欲しいと思い、推薦します。

『ぼくが見た太平洋戦争』
宗田　理／著　ＰＨＰ研究所

本の冒頭「はじめに」の中に書かれている著者の詩の一部を紹介します。

「あの日は、おれたちにとって地獄だった。降り注ぐ爆弾と業火の中を逃げ惑った。おまえたちはなぜ還って来なかったのか。それが悔しい。　〔中略〕
おまえたちと一緒に老いたかった。　〔略〕　」

ウクライナでの惨劇が続いている今だからこそ、私たちが目を背けてはいけない、我が国の歴史を見つめ、考えるときではないかと思います。とても読みやすい本なので是非手に取ってみてください。

『略奪者のロジック 超集編』 秋嶋 亮　　白馬社

「気づかない」ことは、幸せなのか？
物事を知らない、自分の頭で考えない、ということは、イヤなことにも気づかなくて済むし、向上心で苦しむこともないので、ある意味では幸せなのかもしれない。

略奪者たちはそんな人間が大好き。自分でものを考えない従順な人間が大好きで、なるべくみんながそうなるように仕向けているらしい。正直者が馬鹿を見る世界を作り、今日も彼らはほくそ笑む。

怪談よりよっぽど背筋が凍ります。

『メタバース進化論　仮想現実の荒野に芽吹く「解放」と「創造」の新世界』
バーチャル美少女ねむ／著　技術評論社

メタバースとは、リアルタイムに多数の人が参加してコミュニケーションをとる、三次元仮想空間のこと。著者はこの世界の「原住民」で、自称・最古の個人系ＶＴｕｂｅｒ。なんだかＳＦの世界だなあと思うのですが、彼女らは今実際にメタバースの世界で生き、経済活動をしています。近い将来私たちも、このような世界で生きることが普通になるのかもしれない、とも思います。バーチャル太フレ高校とか…どうですか？

『法律がわかる！桃太郎こども裁判』
岩貞るみこ／著　講談社

民法の改正があり、今年2022年4月から成人年齢が18歳となりました。高校3年目に「成人」となる生徒さんもいるということです。子どもなら少しくらいのことは許されていたとしても、「成人」となったなら、「知らなかったです。ごめんなさい。」は、許されないことも出てくるでしょう。『桃太郎』や「お姫様系童話」が現在において、どういう法律違反やルール違反であることが分かりやすく説明されていますので、おすすめです。

『おいしくて泣くとき』
　森沢明夫／著　ハルキ文庫

「大衆食堂かざま」と「カフェレストラン　ミナミ」、２つの話が交互に語られる。共通点は「子ども食堂」をやっていること。この話がどう繋がるのか？
森沢明夫さんの小説にはいつもしてやられるのだが、今回もまんまとやられました。
歳をとると涙もろくなりますね。

『風姿花伝・花鏡』
世阿弥／原著　たちばな出版

世間に世阿弥の言葉としてよく知られている、「初心忘るべからず」の典拠は、『花鏡』の奥の段にあります。これには三箇条の口伝があり、「是非初心不可忘。自らの批判規準となる初心を忘れてはならない」、「時々初心不可忘。自分のそれぞれの時期における初心を忘れてはならない」、「老後初心不可忘。老後の初心を忘れてはならない」だそうである。よく知られている言葉を調べていくうちに新しい世界と出会う契機となれば幸いです。

『身の下相談にお答えします』

上野千鶴子／著　朝日文庫

変なタイトルですが、怪しい本ではないので人前で読んでも大丈夫です。著者は社会学者で東京大学名誉教授の上野千鶴子さんです。この人、某テレビ番組のチコちゃんのモデルじゃないかといわれている人です。内容は新聞に連載された人生相談への回答です。のぞき見根性でいろんな人の悩みに触れられるのがいいところ。そのうえ相談者が上野先生にビシって叱られるところがおもしろいところです。

『徳川１５代将軍　解体新書』

河合　敦／著　ポプラ新書

家康、秀忠、家光、綱吉、吉宗、家定、家茂、慶喜。
有名な徳川将軍はこんなところでしょうか。
これらの将軍のことが詳しくわかります。そして、これまで知らなかった将軍のことも。
将軍を通して江戸時代全体も見えてくる、歴史好きには楽しい一冊です。

『東大首席が教える超速「7 回読み」勉強法』
山口真由／著　PHP 文庫

この本で提示された方法論はいたってシンプル、「7 回読め」と・・・。確かに 7 回読んだ本なんてほとんどないよなあ・・・。好きなアイドルの MV だってそんなに見ないし・・・(ん？見るか)。とりあえず読んでとりあえず実践してみるのが良き。

『悲観する力』(幻冬舎新書)　森　博嗣　著

「楽観的」「悲観的」と聞くと、前者がポジティブで後者がネガティブな印象を抱くことでしょう。しかし、本書に目を通すことで、きっとその印象に多少の変化があるはずです。

「楽観」が良いと思っている人が多い世の中のようですが、森さんの語る「悲観」という考え方を頭に入れておくと今後の生活に役立つことがあるかもしれません。

面白い視点で書かれていると思います。時間があるときに手にとってみてください。

『空をこえて七星のかなた』
　加納朋子／著　集英社

　１冊のなかに７つのお話があります。１話ごとに変化があり、読み終えるたびに、ひとつの希望が見えるような気持ちになります。そして、全部を読み終えたときに、「よし、頑張ろう」と思えるような大きな希望が感じられます。お話の構成・展開上、内容にふれることができませんが、明日への元気をくれる１冊です。

『図書館の大魔術師』
　泉光／画　講談社

　コミックの話題・紹介をしているテレビ番組で偶然、見た１冊です。ジャンルとしてはファンタジー。ストーリーは、異世界を舞台にしていますが、主人公の少年の成長の物語です。自分の夢に向かって進んでいく主人公の姿が、大きな感動と希望を与えてくれる１冊です。
　実際の題名の「図書館」は、「口」のなかに「書」と書かれています。

『北極と南極の「へぇ～」 くらべてわかる地球のこと（環境ノンフィクション）』
　　中山由美／文・写真　学研プラス

　北極と南極のことがよくわかります。ノンフィクション（事実をもとに作られた作品）なので、北極と南極の光景が目に浮かんできます。地球のことも少しずつ見えてきます。

『　はたらく細胞　BLACK　』
　　原田重光・初嘉屋一生/講談社
　清水茜さんの『　はたらく細胞　』のスピンオフ作品です。はたらく細胞では、菌の侵入に対し免疫細胞の活躍などでスカッとする作品ですが、BLACK では次々に病が身体を襲い、自分の体も将来こうなるのかなと不安になる作品です。
　飲酒・喫煙・カフェイン摂取など、その影響が体内へどのように良い・悪い影響があるか、わかりやすく書いてあります。図書館に置いてあります！是非一読し、生活習慣を見直すきっかけにしてくださいね。

『数の悪魔』

H．M．エンツェンスベルガー／著　（晶文社）

算数も数学も大嫌いな男の子・ロバートの夢の中に、【数の悪魔】を名乗る老人が現れます。悪魔が語る「数」のマジック。講義は教室ではなく、海や、宮殿、洞窟の中で繰り広げられます。

おすすめしている私自身、算数が非常に不得意です。そして、これは「この本を読めば算数が得意になる」という本ではありません。けれど、「数学って面白いかも？」と、苦手な分野を少し身近に感じさせてくれる一冊です。

『ハサミ男』

殊能将之／著　（講談社）

世間の注目を集める猟奇殺人犯「ハサミ男」。次の犠牲者を狙っていたところ、自分の手口をそっくり真似て殺害された死体を見つけることになる。模倣犯は、一体何者か？ 殺人犯自身が探偵のように、模倣犯を捜査する。そんな推理小説です。

読むときにはぜひ、「ハサミ男」の見た目を想像しながら読んでみてください。最後にその想像がひっくり返されることでしょう。

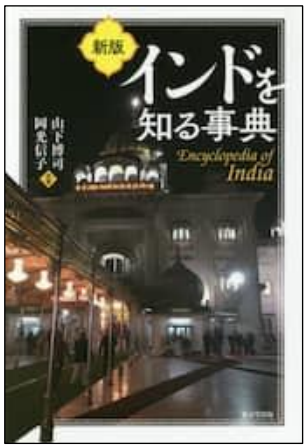
『北条義時―鎌倉殿を補佐した二代目執権』
　岩田慎平／著　中央公論新社

今年の大河ドラマの主人公北条義時についての研究がわかりやすくまとめられた新書です。

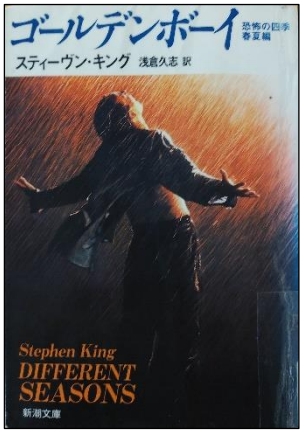
北条氏は、学校の授業では泰時・時宗ぐらいであまり出てきませんが、鎌倉幕府執権北条氏の地位を確立した人物です。新書で知識を得て、ぜひドロドロの人間関係が楽しめる？大河ドラマ「鎌倉殿の１３人」も視聴してみてください。

『インドを知る事典』
　山下博司，岡光信子／著　東京堂出版

　コロナ禍で海外旅行が難しいですが、日本とインドの習慣や文化の違いを興味深く感じることが出来る本です。
　色々な国の人々と接する上でとても興味深く、今現在日本でも進んでいる国際化に対応出来る内容です。一度読んでみてください。



『ゴールデンボーイー恐怖の四季春夏編』
　スティーヴン・キング（著）、浅倉久志（翻訳）/新潮文庫



　スティーヴン・キングが書いた中篇作品集『恐怖の四季』の春夏編。中でも春の作品『刑務所のリタ・ヘイワース』は、映画『ショーシャンクの空に』の原作になっています。映画と原作で異なる部分が多いので、映画を知っている人は、また違った楽しみ方ができると思います。

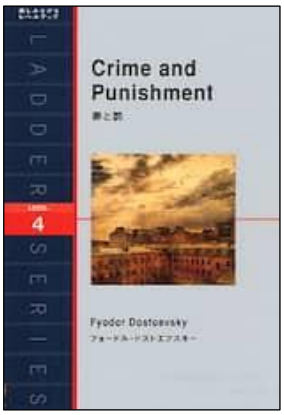
『朔と新』
　いとう　みく／著　講談社

今日から目隠しをして生活してください。と言われて、普段通りの生活ができる人はいないと思います。視覚情報を頼りに生活していることが分かるのではないでしょうか？
バス事故に巻き込まれた兄弟が主人公です。兄の朔はこの事故で目が見えなくなってしまいます。事故で失明した兄と、原因は自分にあると後悔し続けている弟の新がブラインドマラソンを始めることになります。兄弟の葛藤と成長する姿を見届けてみてください。

『罪と罰』
　ドストエフスキー／著　IBC パブリッシング

「選ばれし天才は、世の中の成長のために、社会道徳を踏み外してもよい」という独特な犯罪思想を持つ主人公は、金貸しの老婆を殺害し奪った金で世の中のために善行を企てる。しかし現場に偶然いた老婆の妹まで殺害してしまうことになる。殺人への罪の意識に主人公は激しく苦悩するが、のちに自分よりも惨憺たる生活を送る女性に出会い、彼女の自己犠牲の生き方や自分への愛に心をうたれ、人間回帰の道を歩み始める。

法的罪も罰も問われないはずの「選ばれし天才」の主人公が犯した罪を認め、罰を受ける決心に至るまでの主人公と周囲の人間の心の描写は読み応えがある。正解を求めず自分なりに解釈しながら読んでみましょう。



『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ』
　Ｊａｍ／著　名越康文／監修　サンクチュアリ出版

この本には、ＳＮＳ、人間関係、職場、自分のモヤモヤから、ココロを守るための６４の考え方が紹介されています。いままで経験したことがあるようなモヤモヤがたくさん紹介されていて、読み終えるととても気持ちが楽になり、多くのことに気づかされます。
参考にしたい箇所だけ読むのもよいと思います。この本は、第１回メンタル本大賞も受賞しています。おすすめの１冊です。

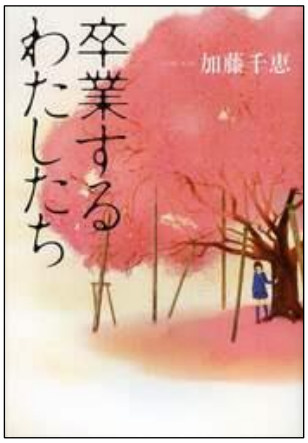
『傑作はまだ』　瀬尾まいこ／著
　ソニー・ミュージックエンタテインメント

そこそこ売れている引きこもりの作家・加賀野の元へ、生まれてから一度も会ったことのない２５歳の息子が突然訪ねてきます。「しばらく住ませて」という息子に押し切られ、同居生活が始まります。世間知らずの父と、完璧な息子は本当の親子になれるのでしょうか？幸福な気持ちにさせてくれる、笑いあり涙ありのハートフルストーリーです。

『パン屋ではおにぎりを売れ』
　柿内尚文/著　かんき出版

少し違う視点で色々な物事を考えることでいつもとは違う結果になりそれは自分の利益になるかもしれないと思えるようになる本です

「卒業するわたしたち」　加藤千恵 // 著　小学館



卒業は学校だけではない。様々な「その瞬間」を描くストーリー。人生における「卒業」は学校に限ったことではなく、こんなにも色々あるんだなと思った。
好きな人との別れや想いを断ち切る事もある種の卒業。親離れ子離れにまつわる「母の告白」と、大好きだった二股男との再会を描くストーリーが私は好きです。卒業してから気づく、その場所が、自分で考えていたよりもずっと愛しい空間であったこと。たった何ページかで終わってしまうような恋でも、ちゃんとさよならをしようと思ってしまう。
切ない悲しいストーリーになっているので読んでみてください。

銀河鉄道の夜　　宮沢賢治／著　新潮文庫

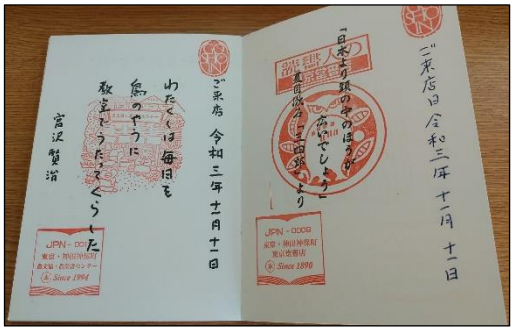
1933 年　著者宮沢賢治の死去により未完のまま遺された小説。
銀河鉄道の夜は、宮沢賢治が多くの名作を世に送り出した作品の中でも、特に評価が高くまた有名な代表作です。
主人公ジョバンニと友人カムパネルラの二人の少年が銀河鉄道に乗り「生と死」「自己犠牲」について旅をしながら考えてゆくお話。少し哲学チックで難解な部分もあるが、その独特な世界観と美しい文体から織りなす物語は日本の小説における傑作の一つだろう。
また多くの者や作品に影響を与え、造語や研究家による解釈などが存在している。（例銀河鉄道９９９など）
題名だけ知っている方、一度読んだことのある方もこれを機に、一度手に取って読んで見てください。きっと素晴らしい列車の旅に出かけられるでしょう。

本と本屋を巡る旅

（御書印プロジェクト制覇）

本が好き！本屋が好き！な人集まれ！
御書印プロジェクトは、2020年3月に始まった、人と書店をつなぐプロジェクトです。参加書店＝御書印店を巡って、200円支払うとオリジナルの書店印を押し、書店員が選んだ本のタイトルや一節を御書印帖に記してもらえます。御書印をきっかけに人と書店との新たな出会いを楽しむことができます。
定時制ⅠⅡ部　先生は、実際に 60 番目に50店舗を制覇されました。先生にお願いすれば、興味深いお話も伺えると思いますし、御書印帖も見せていただけると思います。
以下に、先生よりお借りした御書印帖の写真をちらっと掲載しましたので、ご覧ください。
詳しくは、御書印プロジェクト Web サイト（小学館）でチェックしてみてください。図書室の掲示板にもポスターとパンフレットを掲示しています

参照：御書印プロジェクト（公式）Web サイト



編集後記

　１０月２７日（木）から第７６回読書週間が始まります。図書委員会では、フレックス高生の皆さんが、本と触れ合う機会を持ち、読書週間を有意義に過ごしてもらいたいとのことから、読書案内を作成しました。この冊子では、校長先生、副校長先生をはじめ、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ部・通信制の先生方、Ⅰ・Ⅱ部図書委員の皆さんがお勧めの本を紹介しています。読書のきっかけづくりや、読書の参考にしてもらえれば幸いです。

　この冊子で紹介した本は、すべて図書室に置いてあります。この他にも図書室には、生徒の皆さんや先生方のリクエストで購入した本、芥川賞や直木賞、本屋大賞を受賞した本をはじめ、いま話題になっている本、映画化・アニメ化された本、ライトノベル、知識や教養を身に付ける本、進路選択に役立つ本、日本や外国の文豪の名作（英語版もあり）など、様々な分野の本が揃っています。読書への発展を期待して、マンガも置いてあります。進学や就職試験の面接などでは、最近読んだ本や感銘を受けた本について、聞かれることもよくあります。読書をすると役立つことばかりです。まずは１冊、気になる本を見つけ読書してみてはどうでしょうか。

　さらに、本校図書室には、上毛新聞・朝日新聞・毎日新聞が配備されています（上毛新聞・朝日新聞は１週間遅れ）。週刊の英字新聞・The Japan Times Alpha も配備されています。新聞には、事件、事故をはじめ、政治、経済、芸能、スポーツ、国際情勢などの動向やニュースが書かれています。新聞から、多くのことを知ったり、学ぶことができますので、積極的に活用してもらえると幸いです。

　最後になりますが、推薦図書を紹介してくださった先生方、ありがとうございました。また、図書委員の皆さんお疲れ様でした。

群馬県立太田フレックス高等学校　Ⅰ・Ⅱ部図書委員会顧問